

学生野球のレジェンド 「伝統の早慶戦」が110周年

東京六大学野球 ZOOM UP

東京六大学リーグが発足したのは1925年秋。それよりも前に対抗戦としてスタートしたのが早慶戦である。1888年に三田ベースボール倶楽部として創部した慶大に対し、早大は遅れること1901年に産声を上げた。それから2年後、早大が慶大に試合を申し込み（挑戦状、11月21日に慶大の三田綱町グラウンドで第1回早慶戦が行われた（試合は11対9で慶大勝利）。ところが、1906年に両校による過熱応援が原因で、中止に追い込まれる。14年に明大が加わったの三大学リーグ、17年には法大、21年には立大が加わった。しかし、早慶の対戦は実現せず、OBによる「三田・稲門戦」としての間、ライバル両校はしのぎを削っていた。そして25年秋に帝大（現東大）が加盟して東京六大学リーグが始まり、19年ぶりに早慶戦が復活した。第二次世界大戦が激しくなった1943年には東京六大学が解散。同10月16日には出陣学徳壮行早慶戦「最後の早慶戦」。学生たちは戦地へと散っていった。

戦後間もない11月18日にはOBを含めた全早慶戦が行われ、翌46年に東京六大学リーグが復活。60年秋には優勝決定戦3戦を経て、早大が逆転優勝を飾った「早慶6連戦」ら、幾多の名勝負が繰り広げられた。2010年秋には50年ぶりの優勝決定戦。主将兼エースの斎藤佑樹（現

「8・31」 あの神宮のスターが夢の競演

早慶戦110周年を記念したイベントが8月31日に東京都内で開催されます。1993年春の同カードで史上初のサヨナラ逆転満塁本塁打を放った早大OBの仁志敏久氏と、94年春の天覧試合で適時打を放った慶大OB・高木大成氏によるスペシャルトークショーが行われます。卒業後はプロ野球で活躍したスター2人による「夢の競演」。チケットの購入方法等は、左記の通りです。

▼イベントタイトル

早慶戦110周年記念スペシャルトークショー
「プロ野球界へと進んだ早慶元主将が語る野球力とは？」

▼ゲスト 仁志敏久氏（早大OB、元主将）高木大成氏（慶大OB、元主将）

▼日時 8月31日 18時30開場、19時開演

▼会場 日本青年会館中ホール

▼定員 300名

▼チケット代（入場料）

特別席（20席）5000円（両氏からのサイン、実技指導の特典付き）

一般席（280席）2000円

※定員になり次第、締め切りさせていただきます

▼お申し込み方法 Double EducationHPのホームページより、お申し込み登録フォームよりお願い致します。

<http://d-education.org/wk/>

▼お問い合わせ先

info@d-education.org

日本ハム）を擁する早大が慶大を下して、半世紀ぶりの激闘を制した。

伝統の一戦は今秋で110年。今春の早慶1回戦が行われた6月1日、神宮球場近くで記念パーティーが開かれた。両校のOB約160人が出席。懐かしい映像を流して過去の栄光を振り返るだけでなく、今後の早慶戦のあるべき姿を提言する「六大学活性化プロジェクト」も紹介された。会の最後には早大校歌と慶大塾歌の斉唱。早大OBでも慶大塾歌を歌い、慶大OBが早大校歌を歌う姿に、両校の絆を感じた。良きライバルであり、最高の仲間でもあるのだ。

今春の早慶戦は4、5位を決める戦いだった。しかし、1回戦は2万

6000人、2回戦も2万1000人の観衆を集め健在を示した。早慶のOBからは「秋は優勝決定戦を」との声が、あちこちで上がっていた。



8月31日のトークショーには早大OB・仁志氏（写真右）と慶大OB・高木氏がゲスト出演。興味深い話が聞かれそうだ